

地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター  
第1期中期目標期間の業務実績に関する見込評価結果  
【報告書】

平成30年9月  
佐世保市

# 目 次

I 小項目評価	
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する 目標を達成するためとるべき措置	．．． P1
(1)判断理由	．．． P1
(2)評価結果	．．． P4
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき 措置	．．． P5
(1)判断理由	．．． P5
(2)評価結果	．．． P5
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	．．． P6
(1)判断理由	．．． P6
(2)評価結果	．．． P8
4 その他業務運営に関する重要事項	．．． P8
(1)判断理由	．．． P8
(2)評価結果	．．． P8
II 大項目評価	．．． P9
III 全体評価	．．． P10
IV まとめ	．．． P11

### 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### (1) 判断理由

##### ① 地域完結型医療の推進 【B評価】

指標とされる地域医療従事者対象の研修会は、全体的に見て開催回数などが若干目標に達していないが、地域医療支援病院にとって主要な物差しともいえる「紹介率」、「逆紹介率」の両指標が目標を上回っており、さらに高い水準にあることや、あじさいネットカルテの閲覧件数も目標を大きく超えることが見込まれている。目標期間を通して地域連携センターが中心となり、地域連携診療計画会議や地域連携懇談会で関係施設に対して患者紹介を依頼しながら連携を求めると、積極的な地域完結型医療に向けた取り組みがなされ、その結果が数値(紹介率、逆紹介率)でも表れていることから、計画を上回って実施できたものとしてB評価とする。

##### ② 提供する医療サービスの充実(救急医療) 【B評価】

救急医療では、救急患者の比率において、重篤な患者(救急車やヘリでの搬入)の割合が増え、ウォークインなど比較的軽症の患者の割合が減少している。このことから県北地域唯一の救命救急センターである佐世保市総合医療センターと地域の一次、二次医療機関の役割分担が進んでいることがうかがえる。

このように、地域の医療機関の協力もあり、市民にとって安全安心な救急医療の連携体制が進んでいるなど、救命救急センターとしての役割がより明確化し機能している。加えて1名ではあるが、目標期間内に新たな救命救急担当医も確保し、その体制充実が図られているなど計画を上回って進捗していると判断できることからB評価とする。

##### ③ 提供する医療サービスの充実(がん医療) 【B評価】

がん医療については、がん患者の就労支援といった国の動きや空き病床の確保といった観点から、必要に応じ入院から外来による診療へ、そのウエイトをシフトさせている。また、質の高いがん診療を目指し、引き続き集学的治療に積極的に取り組む一方で、平成29年4月には「緩和ケア内科」を新設した。

これにより、がん患者に対し、高度ながん医療とともに質の高い緩和医療の提供が可能となるなど、地域がん診療連携拠点病院として、その幅を広げている。

また、各指標についても、全体的に見て目標値を適度に超過しているなど、本項目においては計画を上回って進んでいるとしてB評価とする。

##### ④ 提供する医療サービスの充実(小児・周産期医療) 【C評価】

小児周産期医療については、最重要課題の一つでもあった小児科医(9名)の維持確保が継続して行われた。一方で、平成29年度には、佐世保市内に産科の病院(1施設)が新規開業し、これにより医療センターが取り扱う正常分娩件数も一時的に減少している。法人としては、地域周産期母子医療センターとしての機能を発揮するためにも、正常分娩の取扱件数の占める割合ができるだけ低くなるのが理想ではあるものの、本項目の増減については地域の産婦人科の状況等を見定めて評価する必要もある。こうしたことも踏まえ、中期目標期間中の状況については、概ね計画通りその役割は果たせたものとしてC評価とする。

##### ⑤ 提供する医療サービスの充実(高度専門医療) 【B評価】

特に急性期病院にとって重要な指標である手術件数、全身麻酔件数については、計画期間中の積み上げでは、目標を大きく超える見込みであるほか、MRI装置、CT装置の撮影件数も目標を大きく超えることが見込まれている。また、内視鏡検査・処置件数、血管造影件数については目標値を下回ったが、実績は増加傾向にある。高度医療機器などの整備については、期間中、放射線治療機器やMRI装置など計画に基づく更新以外に、地域の要望を受け、県北地域でも希少とされる、「あざ治療機器」を導入した。このほか、平成28年度には「内視鏡センター棟」を増築し、必要なスタッフを増員するなど、より高度で充実した内視鏡による診療が可能となった。本項目においては中期目標期間を通して全体的には計画を上回る実績であったとしてB評価とする。

## ⑥ 提供する医療サービスの充実（政策医療）【C評価】

政策医療に関しては、小児・周産期医療などは他の項目で評価していることから、ここではそうした部分を除く、離島医療、結核・感染症医療、災害医療について評価する。

目標期間中、離島医療については特に黒島（高島含む）診療所において常勤医が不在になる時期があり、目標期間の最終年度も不在となっている。これについては、佐世保市総合医療センター本院からの医師の派遣などにより対応しているが、住環境の問題などもあり、なかなか常勤医師が定着しなかったことから、平成29年度には大掛かりな公宅の改修等を行ったが、残念ながらその効果が見られていない状況である。

また、宇久診療所についても常勤医師2人のうち1人が平成28年度末で退職となったが、努力した末どうにか1人を確保した状況であり、現時点では期限付きの雇用となっている。宇久診療所については、赤字額が大きいこともあり、医師確保と合わせてその改善策を講ずる必要がある。

結核・感染症医療について、結核患者については目標値（1,500人）の設定時点で、基礎となる実績がたまたま大きかったこともあり、全体的にも目標以下の患者数であった。また、感染症については、幸いにも目標期間に感染症病床の稼働はなかった。

災害医療対策については、災害時に事業が継続できるよう災害医療BCP基本計画を策定し、これに準じた備蓄品の確保や行動訓練が行われている。

評価に関しては、特に離島医療の運営について、医師確保や収支の改善といった課題はあるものの、目標期間中はその維持継続に努めており、医師の雇用等一定の結果も出ていること。また、災害医療においては、積極的な訓練の実施や災害医療BCP基本計画を策定していることなど、概ね計画通りであることからC評価とする。

## ⑦ 医療人育成体制の充実（医師の研修制度の充実）【B評価】

本項目においては、研修医の確保について、研修体制の整備や処遇の改善に努めた結果、目標期間中に大きな改善が見られ、その数が飛躍的に伸びている。特に、医療センターが独自に作るプログラムによる基幹型の研修医は、目標期間中、平成28年度5人→平成29年度15人→平成30年度20人と右肩上がりに増加した。

また、医学生の実習受け入れや医師を対象とした研修会の開催などの指標値も目標以上の実績が見込まれている。さらに、平成30年度は、新専門医制度による基幹型プログラムも構築するなど、医師の研修制度の充実に関しては、全体的に計画を上回って進捗しているとしてB評価とする。

## ⑧ 医療人育成体制の充実（看護師・薬剤師をはじめとする医療従事者の育成の充実）【C評価】

自己評価のとおり、法人において必要とされる取り組みをしているが、指標上はマイナスが目立っている。

この主な要因については、長崎県看護キャリア支援センターの開設や、市立看護専門学校が独自で研修先、講師を確保するようになったことなどから、その影響で看護学生実習や講師（看護師）の派遣依頼が減少し、目標を下回っているものである。今回の評価では外的要因によるものととらえ、目的である看護人材の育成には影響を与えないことから、これを一定考慮して評価するが、今後の看護学生の受け入れについては、市立看護専門学校生以外の受け入れにも注力し、地域の医療の質の向上に貢献していただきたい。

また、資格取得者の人数については、目標期間中は人事異動等の影響も受け減少したものの、当初計画と最終年度見込みの比較では全体では2人のプラスが見込まれている。以上のことを総合的に判断して本項目の評価はC評価とする。

## ⑨ 医学研究の推進【C評価】

本項目においては、法人の自己評価にもあるように、目標期間中に2名の治験コーディネーターを増員するなど、治験業務の体制強化が図られた。また、指標となる治験の新規契約件数、臨床研究審査件数ともにほぼ目標通りの実績であることから概ね計画通りとしてC評価とする。

## ⑩ 医療の質の向上（施設、設備の充実）【C評価】

中期計画に計上されていた大型の施設・設備計画については、計画通り実施され、平成28年度に内視鏡センター棟が完成し、電子カルテサーバー更新についても平成30年度中に完了（平成29年度末の進捗率は事業費ベースで約56%）する見込みである。本項目においては、概ね計画通りの進捗であることからC評価とする。

⑪ 医療の質の向上（医療従事者の確保） 【C評価】

医師の確保については、平成29年度に正規職員化したレジデント(平成30年度のレジデント数は22名)を考慮すると、当初定めた計画に沿った実績見込みとなる。その他の医療技術職や事務員については、それぞれ目標を超えた確保ができる見込みとなっている。

しかしながら、看護師と薬剤師については、本地域における資源不足などもあり、見込み値は目標を下回っており、中でも看護師については実績ベースでも減少傾向がうかがえることから、かなり深刻な状況であるといわざるを得ない。法人においても、そうした厳しい状況を受け、目標期間中は、院内託児所を開設したほか、採用のタイミングを増やすため随時募集を行うなどの方策を取ったが、残念ながら現時点でその効果が見られない状況である。

なお、看護師については最終的な目標値と見込値で 12 名の不足となっているが、熊本市市民病院からの研修生を加えれば、その差が4名の不足に縮まることや、医師、医療技術職及び事務職等の職員については目標に達する見込みであること、さらに人員確保に関する法人の目標期間中の取り組みを考慮し、本項目の評価はC評価とする。

⑫ 医療の質の向上（患者サービスの向上） 【C評価】

中期目標期間においては、法人の総評にもある通りハード、ソフト両面から様々な取り組みがなされているものの、指標である患者満足度調査に大きな改善の動きは見られない状況である。平成29年度は採血室の改修や入院個室の改修なども行われたことから、平成30年度の調査時点で一定の効果が見られることを期待したい。また、そのアンケート調査の結果で満足度が低かったものについては、今後その改善に向けて取り組む必要がある。一方で、患者相談に関しては、相談件数が当初の目標を大幅に上回る好結果となっている。

本項目の評価については、患者満足度調査の結果は、現時点で目標値を若干下回ってはいるものの、法人の自己評価にある通りの患者サービスの提供に対する取り組みがなされたことや、患者相談件数が大きく目標を上回っていることなど総合的にみて、概ね計画通りとしてC評価とする。

⑬ 医療の質の向上（安全性の高い信頼される医療） 【C評価】

医療安全や院内感染対策については、それぞれ院内に設置した委員会を中心に、普段から職員に対する指導や普及啓発が行われている。また、本項目の指標となるそれぞれの研修についても、中期目標期間の目標を100%という高い目標に設定し、職員への参加指導を強化した結果、平成29年度は94%にまで伸ばすことができています。

院内感染に関しては、目標期間中もインフルエンザの軽微なアウトブレイクが発生したものの早期対策により沈静している。これについては、インフルエンザに関わらず、くれぐれも院内感染が発生しないようその対策を徹底していただきたい。

また、法令順守や情報公開に関しては、大きな問題もなく適切に処理されている。

本項目における中期目標期間の評価については、指標である研修参加率が若干目標にとどいていないものの、全体的には概ね計画通りであったことからC評価とする。

⑭ 医療の質の向上（臨床指標の充実及び開示） 【C評価】

中期目標期間中はDPCデータの分析により、職員の診療報酬に関する理解促進や医療の質の向上に努めている。また、DPCデータによる病院情報や疾病統計、患者数などの臨床指標や診療実績等をホームページ上に公開している。自己評価はBであるが、定量的にも定性的にも計画を上回ったとする確認ができなかったことから概ね計画通りとしてC評価とする。

(2) 評価結果

①地域完結型医療の推進	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
②提供する医療サービスの充実 (救急医療)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
③提供する医療サービスの充実 (がん医療)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
④提供する医療サービスの充実 (小児・周産期医療)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑤提供する医療サービスの充実 (高度専門医療)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑥提供する医療サービスの充実 (政策医療)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑦医療人育成体制の充実(医師 の研修制度の充実)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑧医療人育成体制の充実(看護 師・薬剤師をはじめとする医療従事者の 育成の充実)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑨医学研究の推進	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑩医療の質の向上(施設、設備の 充実)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑪医療の質の向上(医療従事者 の確保)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑫医療の質の向上(患者サービ スの向上)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑬医療の質の向上(安全性の高 い信頼される医療)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
⑭医療の質の向上(臨床指標の 充実及び開示)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

## 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### (1) 判断理由

#### ① 法人としての管理運営体制の確立（適正な法人管理体制の構築）【C評価】

理事会の開催や、院内の意思決定会議である経営会議は定期的に行われ、そこでの決定事項等については理事長のリーダーシップのもと目標達成に向け法人を上げて取り組まれている。また、末端の職員に対しても情報が行きわたるよう、必要に応じて病院運営会議の開催や院内グループウェアを通じて情報共有されている。本項目については概ね計画通りとしてC評価とする。

#### ② 法人としての管理運営体制の確立（効率的な病院運営）【C評価】

効率的な病院運営に関しては、理事会をトップとした組織だった決定プロセスにより、人材確保、設備投資等必要な時期に必要な決定が行われ組織を上げて実行に向けて取り組まれている。

中期目標期間においても、診療報酬の加算につながる人材の確保や医療機器の導入など、柔軟かつ迅速に対応がなされた。また、独法化直後から、複数年契約への移行や材料価格の値下げ交渉に取り組むなど効率的な業務運営にも努めている。本項目においても全体的に概ね計画通り進んでいることからC評価とする。

#### ③ 人材の確保と育成【C評価】

目標期間中は、新たに職員向けの院内託児所を開設し、職員の福利厚生に対応している。また、人事給与面においては業績手当を新たに導入するなど、職員のモチベーション向上に努めた。このほか、平成28年度には全職員を対象とした「職員満足度アンケート調査」を実施するなど職場環境の改善につなげている。

以上のことから、目標期間における人材確保に関する取り組みとしては、概ね計画通り進捗しているものとしてC評価とする。なお、看護師や薬剤師といった不足している職種の職員については、他職種とのバランスも考慮しつつ、特にその維持確保のための魅力ある職場環境づくりに努める必要がある。

### (2) 評価結果

①法人としての管理運営体制の 確立(適正な法人管理体制の構築)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
②法人としての管理運営体制の 確立(効率的な病院運営)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
③人材の確保と育成	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

### 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

#### (1) 判断理由

#### ■収益の確保と費用の節減に関する数値

区 分	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	平成30年度 見込値	中期計画及び H30年度計画 目標値	目標値差
経常収支比率(%)	104.4	100.4	101.5	101.5 以上	0.0
医業収支比率(%)	98.2	94.6	97.2	97.2 以上	0.0
薬品費比率(%)	17.5	17.6	16.5	15.3 以下	1.2
診療材料費比率(%)	14.0	14.3	13.2	12.9 以下	0.3
人件費比率(%)	50.0	52.4	53.3	54.0 以下	▲0.7
純利益(円)	750,009,145	17,577,758	35,083,000	35,083,000	0
純利益率(%)	4.0	0.1	0.2	0.2	0
経常利益(円)	750,709,145	69,032,257	150,086,000	150,086,000	0
経常利益率(%)	4.2	0.4	0.8	0.8	0
医業利益(円)	▲285,919,489	▲896,898,868	▲379,080,000	▲379,080,000	0
医業利益率(%)	▲1.8	▲5.8	▲2.3	▲2.3	0
金利負担率(%)	0.4	0.4	0.3	0.3	0.0

※経常収支比率から人件費比率までの 5 項目は、中期計画における最終目標値と比較。それ以外は、中期計画で特に目標設定していなかったため、平成30年度計画の目標値と比較

#### ■財務基盤の安全性の数値

区 分	安全性の 理想数値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	理想値対 H29年度
自己資本比率(%)	50 以上	22.5	24.0	▲26.0
固定長期適合率(%)	100 以下	78.1	80.7	▲19.3
流動比率(%)	200 以上	210.3	187.5	▲12.5

#### 【「安全性の理想数値」自己資本比率、固定長期適合率、流動比率の用語説明】

- 自己資本比率 (自己資本×100/負債・資本合計)%  
自己資本比率とは、自己資本が総資本に占める割合を示す指標。  
一般的に自己資本比率が50%を超えているとかなり優良であるといわれている。
- 固定長期適合率 (固定資産×100/固定負債+自己資本)%  
固定長期適合率とは、固定資産に投資した資金が長期資金でどれだけまかなわれているかを見るための指標。  
固定長期適合率が100%以下となっていることが理想で、できれば50~80%程度であるとなお良いとされている。
- 流動比率 (流動資産合計×100/流動負債合計)%  
流動比率とは、流動負債(短期債務)の支払能力を示す指標。  
流動比率が高ければ高いほど企業の支払能力が高く、200%以上を超えていれば安全であるといわれている。



### ① 経営基盤の確立【C評価】

経常収支(臨時的な収支を除く)については、目標期間を通して黒字であった(が見込まれる)ことから、その比率も100%を超えているが、平成29年度は若干目標を下回った。一方の医業収支については、目標値自体が100%を切る赤字であるが、目標値には達する見込みである。病院では、毎月開催される「病院運営会議」(各診療科長等が出席)において、事前に分析した各診療科における患者動向や収入動向などを報告し、その稼働状況を把握することで次の対策を練り、収益性を高めている。

一方の支出については、外部のコンサルタントを導入し経費の節減対策を図ったほか、材料費の削減対策にも取り組んだ。本項目においては、こうした活動状況や二つの比率を総合的に勘案し、概ね計画通り進んでいるものとしてC評価とする。

### ② 収益と費用の適正化(収益の適正化)【C評価】

患者数については、がん患者が入院から外来へと移行していることなどにより、入院患者数は減少傾向、外来患者数は増加傾向にあったが、外来患者の増加については、今後、大きな増加は見込めない。一方の診療単価については、入院、外来ともに順調に伸び続けており、医業収益全体の押し上げにつながっている。特に外来の診療単価については、がん治療などの増加により単価が上昇しているものと思われる。

増収のポイントともなる施設基準の取得状況については、中期目標期間中、「強度変調放射線治療(IMRT)」や「脳血管疾患等リハビリテーション料(I)」などの基準を取得し増収につなげている。

また、DPCの分析やその結果の活用により、収益の改善に努めている。収益の適正化については、全体的に概ね計画通り進んでいることからC評価とする。

### ③ 収益と費用の適正化(費用の適正化)【C評価】

費用の適正化については、独立行政法人化後、過去の基準等にとらわれない柔軟な手法を用い、特に材料費(薬品費、診療材料費)や委託料など、外部のコンサルタントも活用しながらその経費削減に努めてきた。

一方で、本項目の指標となる材料費の比率をみると、その効果が数字に反映されていないというのが現状である。これについては、高額な抗がん剤の使用や医療技術の進展に伴う診療材料の質の向上による高額化などが考えられ、決算値の比較においても増加傾向が続いている。しかしながら、本指標は比率であることから、材料費が上がる反面それに見合う収入が得られていれば、比率はあまり変動しないものと思われる。人件費や材料費はいわゆる固定費であるので、こうした費用の削減が安定した経営につながることから、今後は使用する材料と診療報酬による収入の内容を分析、研究して材料費比率の低減につなげていただきたい。

本項目については、材料費の比率において目標に達しないことが見込まれるが、目標期間を通して値下げ交渉やコンサルタントの導入などにより一定の費用の削減には努めていること。また、人件費比率や後発医薬品使用率は目標達成見込みであることなどから、全体的には概ね計画通りとしてC評価とする。

### ④ 収支計画等(予算、収支計画、資金計画)および財務の安全性【C評価】

平成27年度に策定された医療センターの第1期中期計画期間中(3年間)の純利益の総額は約8.5億円であった。

これに対し決算値(見込み)の純利益総額は8.0億円と、当初の計画額に近いものとなる。しかしながら、この8.0億円中、7.5億円は平成28年度の利益であることから、平成29年度、平成30年度については、それぞれ、当初計画の純利益を下回ることになる。また、予算上の投資計画については、内視鏡センター棟の増築や電子カルテサーバーの更新など、計画通り行われ(見込まれ)ている。

さらに資金計画については、第2期中期目標期間に繰り越す資金は35.7億円を見込んでいたが、決算では見込みより約2.1億円多い37.8億円を繰り越す見込みとなっている。

各財務指標については、評価の参考のため、毎年度の決算値により実績を確認しており、目標期間中の平成28年度及び平成29年度の結果では、財務上そう大きな問題は見られない。

以上のことから、予算、収支計画及び資金計画においては概ね計画通りであるとしてC評価とする。

## (2) 評価結果

①経営基盤の確立	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
②収益と費用の適正化(収益の適正化)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
③収益と費用の適正化(費用の適正化)	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
④収支計画等および財務の安全性	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

## 4 その他業務運営に関する重要事項

### (1) 判断理由

#### ① 救急ワークステーションの充実【B評価】

特に、医学的教育が必要とされる救急救命士等救急隊員に対して、医師による教育研修等が行われるなど、中期目標である救急ワークステーションの充実が図られた。また、研修を受ける人数も中期目標期間内に大きく増加(H27年度8名 → H28年度12名 → H29年度18名 → H30年度22名)し、救急隊員全体の質の向上にも寄与した。こうした状況から、本項目においては計画を上回って進捗したとしてB評価とする。

#### ② ボランティア制度の活用【B評価】

ボランティアを活用したサービスの向上については、その仕組みの構築やボランティアガイドの作成、ボランティアの募集などに努めた結果、平成27年度は1名であったボランティアが、平成28年度は一気に6名となった。しかしながら、中期目標期間の最終年度には3名と半減する見込みであるが、中期目標期間前には1名しかいなかったボランティアを増員し、その運営体制を整備するなど期間中を押しなべて見ると、計画を上回っているものとしてB評価とする。

#### ③ わかりやすい情報発信【C評価】

中期目標期間は、住民に対して、病院の情報と病気に関する情報についてホームページ等を利用し「より正確に・より分かりやすく・より利用しやすく」提供することに努めている。

平成28年度には病院のホームページをリニューアルしたほか、指標とされる健康教室、市民公開講座についてもほぼ目標通り実施された。法人の評価はB評価であるが、客観的に目標を上回ったという状況が見て取れないことからC評価とする。

## (2) 評価結果

①救急ワークステーションの充実	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
②ボランティア制度の活用	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
③わかりやすい情報発信	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

## II 大項目評価

### 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 大項目評価の結果 C

(目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	5	9	0	0	14項目
点数	0	20	27	0	0	47点

【平均点】  $47点 \div 14項目 = 3.36 \approx 3点$  (評価区分 C)

※小数点以下第1位四捨五入

### 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 大項目評価の結果 C

(目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	0	3	0	0	3項目
点数	0	0	9	0	0	9点

【平均点】  $9点 \div 3項目 = 3.00 = 3点$  (評価区分 C)

### 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 大項目の評価結果 C

(目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	0	4	0	0	4項目
点数	0	0	12	0	0	12点

【平均点】  $12点 \div 4項目 = 3.00 = 3点$  (評価区分 C)

### 4 その他業務運営に関する重要事項

#### 大項目の評価結果 B

(目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる)

	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
小項目数	0	2	1	0	0	3項目
点数	0	8	3	0	0	11点

【平均点】  $11点 \div 3項目 = 3.67 = 4点$  (評価区分 B)

1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善
4 その他業務運営に関する重要事項	A 特筆進捗	B 計画を上回って	C 概ね計画どおり	D やや遅れ	E 重大な改善

### Ⅲ 全体評価

#### 全体評価の結果 C（目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる）

大項目区分	A (5点)	B (4点)	C (3点)	D (2点)	E (1点)	合計
1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	5 (20)	9 (27)	0 (0)	0 (0)	14 (47)
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (0)	3 (9)	0 (0)	0 (0)	3 (9)
3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	0 (0)	0 (0)	4 (12)	0 (0)	0 (0)	4 (12)
4 その他業務運営に関する重要事項	0 (0)	2 (8)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (11)
合計	0 (0)	7 (28)	17 (51)	0 (0)	0 (0)	24 (79)

※ 項目数(点数)

全体評価の結果

【平均点】 79点 ÷ 24項目 = 3.29点 ≒ 3点 (評価区分 C)

※小数点以下第1位四捨五入

## IV まとめ

地方独立行政法人佐世保市総合医療センターは、地方公営企業から経営形態を移行し、平成28年4月1日に地方独立行政法人として新たに設立された。

本業務実績評価については、同法人が第1期中期目標期間（H28年度～H30年度）の最終年度にあたることから、その中期目標期間の見込み評価を行ったものである。

この見込み評価は、平成29年度の地方独立行政法人法の改正に伴い、新たに行うこととされたものであり、その目的は次期中期目標設定における重要な判断材料とするためのものである。なお、本業務実績評価にあたっては、中期目標期間3年間の評価を行っているが、平成30年度に関してはその実績が確定していない。よって、その実績は法人が見込んだ数値等をもとに評価し、中期目標期間全体の評価を行っている。

小項目評価については、記述している通りであるが、その結果、大項目評価区分における「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」の3つの項目はC評価で、「その他業務運営に関する重要事項」の1項目がB評価となった。さらに、全体評価を集計した結果はC評価となり、佐世保市総合医療センターの第1期中期計画期間における全体の業務実績の見込み評価は中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画通り進んでいるという評価結果であり、適正かつ効率的な業務運営に努めていることが確認された。

なお、評価に当たり特徴的であった内容は次のとおり。

- ① 目標期間中は「紹介率」、「逆紹介率」とともに中期目標期間以前より伸びており、高い水準を維持しているほか、あじさいネットカルテの閲覧件数も伸びているなど、目標とする地域完結型医療の推進については計画を上回って実施された。
- ② 高度急性期医療を支える病院として、地域の医療機関との連携を深めている。特に、救命救急センターとしての役割については、地域の一次、二次医療機関の協力もあり、目標期間中も重篤な救急患者の受け入れの割合が着実に増加している。
- ③ がん医療、高度専門医療、小児周産期医療についても、中期目標期間前と比べると、緩和ケア内科の新設や手術件数の増加などが図られたほか、小児科医の維持、確保に努め地域の拠点病院としての役割を果たすなど、概ね計画通りか、これを上回って実施されている。
- ④ 人材の確保について、特に研修医については中期目標期間前（平成27年度）は0人であった基幹型の研修医が飛躍的に増加したほか、正規の医師数についても目標を達成している。一方で、看護師と薬剤師については、地域における資源不足もあり中期計画に定めた数値の達成は困難な状況である。院内託児所の開設や随時募集をおこなうなど人材確保のための対策は練られたものの、厳しい状況となっている。
- ⑤ 収支については、中期目標期間の初年度(平成28年度)は約7億5,001万円の純利益であったが、2年目は1,758万円へ減益となった。平成30年度は約3,500万円の利益が見込まれており、見込み通りであれば中期目標期間中は連続の黒字決算となる。入院、外来とも診療単価が増加傾向にあったことから、収入面での懸案はあまり見られなかった。一方の支出では、人件費や材料費、減価償却費などが増加しており、収入の伸びを上回る支出の増加が見られており、今後こうした支出の伸びをいかに抑えるかが経営のポイントといえる。

以上